

市事研 会報 おおさか 翔

令和3年10月11日 発行 大阪市立小中学校事務研究会 会長 小山 純大 編集 同事務局

ホームページアドレス：<http://www.y1.x312v.smilestart.ne.jp/>

第27回 大阪市立小中学校事務研究大会

学校力向上の一翼を担う

～チームで広げよう！学校事務の可能性～

令和3年11月2日（火） 14：00～

アネックスパル法円坂 7階 なにわのみやホール

13：30	14：00	14：15	15：15	15：30	17：00
受付	開会行事	研究発表	休憩	記念講演	

《研究発表》

研究部では昨年度、「働き方改革と学校事務職員のあり方」と題して、働き方改革の推進に向けたかかわりを、学校経営への参画の一部として捉え実践と考察を行いました。そして、学校事務職員がもつ総務・財務の専門性を中心とした多角的な視点から、学校における課題を見つけ解決の方策を提案することや、学校でミドルリーダーとしての役割を果たしていくことの重要性などについて研究集録にまとめ発行しました。

今年度は、「働き方改革から考える今後の学校事務職員のあり方」と題して、学校事務職員にスポットを当てた業務改善の実践と検証を行いました。また、個々の学校事務職員の力量だけでなく、学校事務職員同士で経験や知識、能力を共有し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮しながら、集団（組織）として学校経営に参画することが、更なる学校マネジメント機能の強化につながることを考察したことから、今後の学校事務職員のあり方について研究した内容を発表します。

昨年は残念ながら研究発表を行うことができませんでしたが、今年は是非とも皆様とこれからの大阪市の学校事務について考える時間を共有したいと切に願っています。皆様のご参加をお待ちしております。

《記念講演》

文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄 様を講師にお迎えし、「共同学校事務室の運営のポイント ～責任を共有し学び合う文化を作る～」と題してご講演いただきます。令和2年度に一部の地域で設置された大阪市の共同学校事務室については、令和5年度の全市展開に向けて検討、準備がすすめられています。共同学校事務室の円滑で効果的な運営に当たっては、室長をリーダーとしながらも、全員が同じ目的に向かって、それぞれの立場に応じた役割を果たしていくことが重要になります。これまでの「個」における手法や考え方から、「集団（組織）」における手法や考え方へと転換を図ることの必要性や、スタッフマネジメントやリーダーシップの観点だけではなくフォロワーシップの重要性等、それぞれの学校でも活用できる、組織における運営のポイントなどについてお話しいただく予定です。

大阪府公立学校事務研究会 第79回研修講座

「意識を変えよう！実践、タイムマネジメント ～業務改善は意識変革から～」

9月2日（木）に第79回研修講座が開催される予定でしたが、緊急事態宣言発令中であったことから、今回は講師のALive代表 川北 麻紀 様が作成されたテキスト資料を配付する形式で行われました。はじめに、業務改善には残業を前提とした時間の使い方や、過去の成功体験・前例踏襲を抛り所とした仕事の取り組み方を見直すことが必要であり、そのための三つの視点が紹介されました。一つ目の視点は「働き方に対する意識を見直す」ことで、どうすることが最適か、何が必要か、“守るべきことは守り、変えるべきところは変える”という意識でさまざまなことを見直し、トライし続けることが必要であるとのことでした。二つ目の視点は「業務を見直し仕事の取り組み方を見直す」ことで、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）、Act（改善）のPDCAサイクルを回し、自分はどの部分ができていないのかを見直す必要があるとのことでした。三つ目の視点は「時間の使い方を見直す」ことで、目の前の細かなことを見る「虫の目」、全体を俯瞰する「鳥の目」、時流を読む「魚の目」を意識しながら、スケジュールを見直し管理する、そして将来に向けた自己投資（自己啓発など）の時間を少しでも長く確保することが重要とのことでした。他にも、「ECRSの原則」「安・正・早・楽のキーワード」等、改善策を考える際のヒントが多く盛り込まれていました。

資料の最後では、テクノロジーの進化と職場のコミュニケーションの重要性に触れ、「自分らしく働き続けるためにも、未来を見据え今できることを一歩ずつ実行していくことが大切です」とのメッセージがあり、参考資料の「業務効率化の具体策」も含めて今後の業務に役立つ内容でした。

第27回 全事研セミナー・令和3年度定期総会報告

第27回全事研セミナー（全国公立小中学校事務職員研究会主催）がオンラインにより開催され、会長あいさつ、文部科学省行政説明、講義Ⅰ「地域と学校－支援から協働、協働から共創へ－」、講義Ⅱ「地域協働のマネジメントにおける事務職員の役割」、第53回全国研究大会埼玉大会（令和4年1月にオンラインで開催）のPR、全事研の概要等を紹介する全事研コーナーの六つの内容で行われました。紙幅の関係上すべての内容を紹介することはできませんが、このうち文部科学省行政説明では、高口 努 文部科学戦略官より、ICTの効果的な活用や新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメント、また働き方改革などの最近の情勢についての説明が行われました。説明の最後には、「事務職員の皆様に果たしていただく役割は一層大きくなっており、さまざまな研修を受講いただくなど絶えず自らの専門性を磨いていただいて、新しい時代の学校教育をチームとして一緒に支えていただきたい」と述べられ、学校事務職員への期待を込めたメッセージで締めくくられました。

また、令和3年度全事研定期総会が書面表決により実施され、令和2年度事業報告、決算報告及び監査報告、令和3年度会長・副会長及び監査の選出、常任理事の承認、事業計画（案）、予算（案）、第53回全国研究大会、支部の承認について提案があり、すべての議案が承認されました。

編集後記 2年ぶりとなる研究大会。実行委員会では、大会当日に向けて準備作業を進めています。開催に向けては感染対策など検討が必要なことも多い状況ですが、「悲観的に準備し、楽観的に対処（危機管理分野における格言です）」していきたいと思っております。学校行事が多い時期ではありますが、当日会場にて多くの方のご参加をお待ちしております。（F）